

平成25年
1月号

桂台地域ケアプラザ

地域交流プログラム

発行日／平成25年1月1日
編集・発行／横浜市桂台地域ケアプラザ
発行責任者／石塚 淳

お問い合わせ先

地域交流部門 897-1111

HPアドレス

<http://www.katuradai.com>

桂台 支えあい連絡会

検索

平成24年8月、介護施設で入居者（80歳代）が電動ベッド用手すりとベッドボードの間に首を挟まれた状態で発見され死亡が確認された事故が発生しました。その前から、介護ベッド用手すりのすき間等に首や足を挟む事故が発生しており、地域包括支援センターや福祉用具の事業所には注意喚起を促されています。当ケアプラザでも福祉用具の事業者の方に協力を依頼して、デイサービスのベッドの安全性について確認してもらいました。そこで、今回の2・3面は電動ベッドの安全な使い方の特集をしています。古いタイプのベッドをお使いの方や、ベッドを譲り受けてお使いの方は安全確認が必要です。特集を読んで、ご不安な方は、ぜひケアプラザにご相談ください。

1月の おしらせ



医療相談

ケアプラザ協力医の龍先生による無料の健康相談を下記日程で行っています。身近な病気の相談など丁寧に対応していただきます。
(予約優先)

協力医：龍 覚先生(上郷医院 院長)

日時：1月11日(金) 25日(金) 13:30~15:00

場所：桂台地域ケアプラザ 相談室1



◆いきいき 趣味講座◆

～バレンタインにぴったりの
「ハートのミニリース」～

大切な方へ思いをこめて……
美しいリボンレイでハート型のかわいい
リースをつくりませんか？

日時：2月3日(日)
14:00~16:00

講師：橘井 寿実さん

参加費：500円

募集：15人(定員次第締切)

申込み：電話か直接ケアプラザへ

☎897-1111



桂台スペシャルデイのお知らせ

桂台地域ケアプラザデイサービスでは、利用者さんへ日頃の感謝を込めて、月に一回「桂台スペシャルデイ」を企画しています。毎月素敵なプログラムを企画していますので、地域の皆様も是非、足をお運び下さい。
ご希望の方は、桂台地域ケアプラザまでご連絡下さい。

日時：2月24日(日)
14:00~15:00

内容：如月コンサート

シンガーソングライターの大和田広美さんの心に沁みる歌声とかわいい子どもたちとのコーラスをお楽しみ下さい。

場所：桂台地域ケアプラザダイルーム



桂台パソコンサロンからお知らせ

“シニアのパソコン初心者大募集!”

簡単なインターネット・メールをマンツーマンで教えていただきます。お仲間をつくって、楽しく学びましょう。

日時：2月7日・14日・21日(各木曜日)
10:00~12:00

募集：3回とも参加可能な方

申込み：電話か直接ケアプラザへ

☎897-1111



安全で笑顔のある 介護・療養を行うために ～電動ベッド(特殊寝台)の安全な使い方～

今回の特集は、電動ベッドの安全な使い方です。重大事故の発生によって電動ベッドのレールの幅などにおける規格も変更されていますが、それでも予想外の事故が起こっている現状があります。そこで、電動ベッドの安全な使い方について『株式会社トーカイ』福祉用具専門相談員鈴木啓央さん、杉山遥さんのお二人にお話を伺いました。



Q1 電動ベッドはどのような方が主に利用されていますか？

A1 布団や一般のベッドでは、起き上がりや立ち上がりが大変になっていると感じている方が多く使用しています。電動ベッドの様々な機能により、ご利用者様の起き上がり動作や立ち上がり動作を支援して、転倒の防止、寝返り、起き上がり、立ち上がり、を安全に行うことができます。その為、電動ベッドを使用することで、ベッドから離れて日常生活を過ごす機会や時間を持ちやすくなり、ご自宅での生活意欲の向上に繋がります（つまり、利用者様の自立を促進する働きがあります）。

Q2 電動ベッドの機能について教えてください。

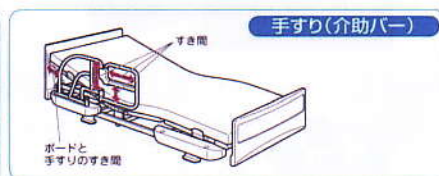
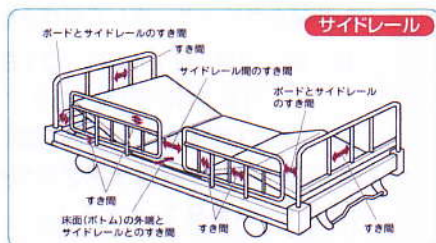
A2 電動ベッドには、3つの機能があります。

- 背上げ機能**：背もたれの角度を自由に調整。起きあがりの補助に役立つ。
- 高さ調整機能**：ベッド本体の高さを自由に調整。立ちあがりやすい高さに調整でき、車椅子への乗り移りの補助にもなる。また、介助者が介助しやすい高さに調整することもでき、介護負担の軽減にもなる。
- 膝上げ機能**：膝の角度を自由に調整できる。背上げ機能使用時の足側へのズレ落ちを防止。また、足のむくみのある方は、足を心臓より高くすることで、むくみの改善につながることもある（尚、ご使用は医師にご相談ください）。 ※利用する方の状況により、機能を組み合わせて活用します。

Q3 重大な事故になりやすい場面やその予防方法を教えてください。

A3 介護ベッドの本体とサイドレール、介助バーは、設置箇所や組み合わせによって、いろいろな箇所にすき間が発生します。このすき間に身体の一部を挟みこんでしまうことがあります。特に頭や首が挟まってしまった場合には、生命に関わる重大な事故につながる恐れがありますのでご注意ください。

<図① 挟まれ事故が起きる可能性のあるすき間>



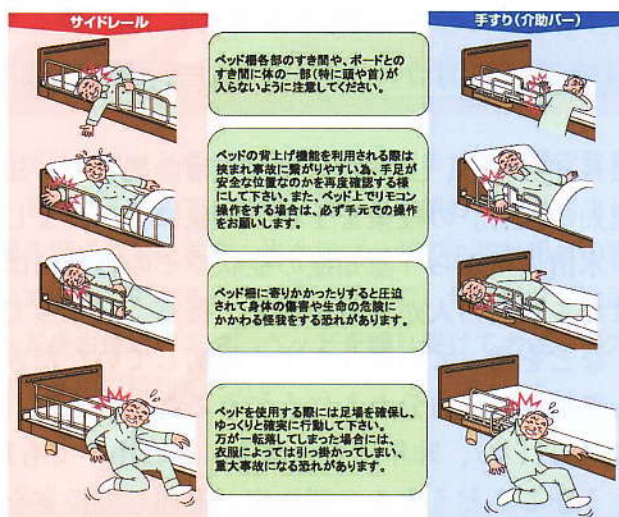
事故になりやすい場面は多くありますが、特に注意が必要な一部を図にまとめてみました。

また、予防方法という点については、新JIS規格の製品使用が推奨されています。平成21年3月のJIS規格改正により、サイドレール間のすきま、ボード（頭・脚側の板）と手すり・サイドレール間のすきま等の基準が強化されて、安全性を高めた予防の対策がなされています。（消費者庁から、死亡事故等の重大な事故は、新しいJIS規格でないベッドを使用中に発生しているとの報告もあります）

また、新JIS規格でない製品を使用されている方については、福祉用具貸与業者の「専門相談員」に相談する事をお勧めします。安全性を高める予防策などの

相談が受けられます。それだけではなく、専門相談員は、利用者の身体状況、生活環境や疾患（認知症）等に応じて、適切な福祉用具やその安全な使用方法についてご提案します。

<図② 挟まれ事故になりやすい場面と注意>



Q4 電動ベッドを使いたい場合は、最初にどこで相談したら良いですか。

A4 介護保険等の対象になる可能性がありますので、お近くの地域ケアプラザに、ご相談してみたいかがでしょうか。ご相談後、ご担当のケアマネジャーから福祉用具貸与事業者に連絡をされます。ケアマネジャーから依頼を受けた福祉用具専門相談員がご自宅やご入院中の病院等まで商品のご説明に伺います。商品を選ぶ際には、一人ひとりの利用者様のご希望、身体状況、介護者様の状況、生活環境をふまえた上で、電動ベッドの提案をさせていただきます。納品後も、利用者様が快適に電動ベッドを使用できるように、私たちがサポートさせていただきます。

介護をされる方、介護をする方双方にとって、様々な機能をもつ電動ベッドは、生活をより良いものにするための補助になります。それには、使用のご本人や介護者にあった製品を選択することが大切であることが分かりました。また、福祉用具に限らずどんな製品でも安全に使用するためには、環境整備が大切です。特にベッド周りの環境の整理整頓！ ベッドの上や下に物が置いていないか？ ベッド周りの家具や壁との間に身体が挟まりそうな空間は無いかな？ 認知症などによって予想外の動きをしないか？ このような事についても注意が必要です。安全で笑顔のある介護を行うために、ぜひ今一度点検をしてみてください。

また介護でお困りの方や電動ベッド等の福祉用具について等ご相談のある方は、ぜひ桂台ケアプラザまでお声かけください。



“地域に広がる認知症理解の輪”

桂台地域ケアプラザのテーマの1つは「認知症への理解の裾野を地域に広げよう」です。住み慣れた街に暮らし続けるためには、優しい街づくりが大切だと考え取組みを進めています。今号では、11月から12月にかけて近隣地域で実施した活動についてお知らせいたします。

◆11月10日(土)、上郷中学校の土曜参観日で“知ろう認知症 そして思いやり”と題し「認知症理解」の授業を1年生対象に行われました。講師である聖ヶ丘教育福祉専門学校の木田先生から「認知症の症状やその行動には理由があり、問題視したり排除するのではなく周囲の人が見方を変えて接し、見守っていくことが必要であることを「だまし絵」などを使ってわかりやすく説明していただきました。また、当日は保護者や地域の方も参加され、「自分たちにもできることがある」と思いを共有した一時間となりました。



◆12月6日(木)、昨年に引き続き、桂台中学でも1年生を対象に、前述の木田先生から「どうなる？ どうする？ 認知症」と題して授業を行っていただきました。まだあどけなさが残る元気いっばいの生徒さんでしたが、認知症のことを知ってもらいたいという先生の熱意が伝わり真剣に耳を傾けている様子が印象的でした。

◆12月1日(土)、本郷地区センターにて開催した第2回協働福祉講座は、“認知症に寄りそって”をテーマにした創作劇「てんやわんやの本郷中央一丁目一番地」でした。参加者は、120名を越え、多くの方々にご覧いただき大きな反響を呼びました。

9月現在、桂台地区の高齢化率は全国平均を超えた32.6%、また認知症の高齢者の割合も年齢とともに高くなり65歳以上の約10%が患っているという数字が出ています。グループディスカッションではこのような状況をふまえ、地域でどのように見守り、支援をしていったらよいかについて活発な意見交換が行われました。

- ・認知症への正しい理解と知識を身につけ、若い世代や男性にも関心をもってもらう
 - ・地域に密着した支援には日頃の付き合いが大切で、いつでも手助けができるよう信頼関係を作っておく
 - ・認知症であることを周囲に知らせたくないという思いを尊重し、緩やかに見守る姿勢も必要
- 討論後、「事例から学ぶ 地域支援のあり方」について、認知症の人と家族の会世話人の方から貴重なお話を伺いました。
- ・認知症は進行を止めることのできない病気で、隠したくても隠し通せない症状がでてくるので、地域の民生委員等には知らせておくとよい。
 - ・介護者が“うつ”になったり、虐待にはしてしまうケースも少なくないので、本人と共に家族支援が必要である。
 - ・近所の方の対応として、四六時中声かけをするのではなく、何かあったときには手助けをするというスタンスがよい。
 - ・認知症は早期の気づきが重要、本人の言動に対して怒ったり否定したりするのではなく受容する気持ちが大切である。

認知症支援の現場から発せられたとても重みのある一言一句でありました。

以上実施された3つの事業は、いずれも認知症サポーター養成講座として位置づけられ、認知症キャラバンメイトの方から「偏見や誤解をなくしそっと見守り、必要なときに手をさしのべる人間杖になってほしい」とサポーターの証としてのオレンジリングが配られました。また、両中学校の校長先生からは、今後も継続して行っていきたいとの貴重なご意見を頂いております。この地域に認知症理解の輪が広がり、支援のネットワークが構築されつつあることを実感しています。